

平成22年度 歌志内市各会計 決算報告

昨年12月に開催された第4回定例市議会において、平成22年度歌志内市各会計決算が認定されましたので、その概要をお知らせします。

平成22年度の決算では、平成21年度1年間で早期健全化基準を下回ることができた実質公債費比率を、今後さらに健全な状態にするよう適切な事業の実施に努めるとともに、財政調整基金へ1億7千万円の積み立てを行い、不測の事態に対応する財源の確保を図りました。

平成22年度一般会計決算を1か月の家計簿にたとえると…

はじめに市民の皆さんの生活にかかわりの深い一般会計の決算をわかりやすくお知らせするため、家計簿にたとえてみました。

副業で経営していたお店を親戚に任せることになり、雑収入・光熱水費などが減少しました。また家の増改築などで前月より支出が増えたものの、光熱水費や仕送りを切り詰めたことで、今後の生活費を調整するために必要な貯金をすることができました。

しかし、収入の柱である親からの仕送りは、いろいろな事情による減額が見込まれることからまだまだ安心はできません。これからも計画的に生活費を見直して、収入に見合った生活をしなければなりません。



給料 (市税)	21,000円	食費 (人件費)	84,000円
パート収入 (使用料及び手数料)	26,000円	家族の医療費 (生活保護費などの扶助費)	56,000円
親からの仕送り (地方交付税、国・道支出金など)	302,000円	光熱水費などの雑費 (物件費)	38,000円
預金からの引き出し (繰入金)	0円	保険料・町内会費 (補助費等)	30,000円
ローンの借り入れ (市債)	23,000円	修繕料 (維持補修費)	2,000円
雑収入 (諸収入など)	18,000円	ローンの返済 (公債費)	66,000円
前月からの繰り越し (繰越金)	14,000円	子どもへの仕送り (繰出金)	40,000円
※歌志内市の平成22年度一般会計決算を、 1か月の家計簿をイメージして作成しました。 金額は千分の1に置き換え、12か 月で割っています。		家の増改築費 (普通建設事業費)	46,000円
		貯金 (投資・出資金など)	16,000円
		親類や友人への援助 (貸付金)	5,000円
1か月の収入合計	404,000円	1か月の支出合計	383,000円

収入404,000円－支出383,000円・・・21,000円の黒字

※平成21年度決算では、収入は418,000円、支出は404,000円でした。

各会計の決算状況

一般会計の平成22年度決算は表1のとおり、歳入が48億4,819万円、歳出が45億9,692万7千円で、差し引き2億5,126万3千円を翌年度に繰り越しました。

前年度決算額と比較すると、福祉施設指定管理者による利用料金制の導入などにより、歳入で約1億6,500万円(3・3%)の減少、歳出では約2億4,800万円(5・1%)の減少となりました。

また、4つの特別会計の決算総額は表2のとおり、歳入が8億1,247万6千円、歳出が7億1,096万6千円で、差し引き1億151万円を翌年度に繰り越しました。

前年度決算額と比較すると、市営公共下水道特別会計における公債費と、これに充てた借換債の減などにより、歳入で約1億8,300万円(18・4%)、歳出で約2億2,200万円(23・8%)減少しました。

会計別の収支では、国民健康保険特別会計で1億143万2千円、後期高齢者医療特別会計で7万8千円を翌年度に繰り越しましたが、そのほかの会計は一般会計からの繰入金により収支の均衡を図りました。

表1 一般会計の決算状況

歳入歳出 予算額 (A)	歳 入			歳 出			差し引き額 (B)-(C)
	決 算 額 (B)	予算額との 比 較 (B)-(A)	執行率 (B)/(A)	決 算 額 (C)	予算額との 比 較 (C)-(A)	執行率 (C)/(A)	
50億 5,934万1千円	48億 4,819万円	△2億 1,115万1千円	% 95.8	45億 9,692万7千円	△4億 6,241万4千円	% 90.9	2億 5,126万3千円

表2 各特別会計の決算状況

会 計 区 分	歳入決算額 (A)	歳出決算額 (B)	差し引き額 (A)-(B)	歳入に含む一般会 計からの繰入金額
市営公共下水道特別会計	4億3,244万4千円	4億3,244万4千円	0円	1億9,734万8千円
市営神威岳観光特別会計	2,137万2千円	2,137万2千円	0円	1,694万円
国民健康保険特別会計	2億6,791万円	1億6,647万8千円	1億143万2千円	2,904万3千円
後期高齢者医療特別会計	9,075万円	9,067万2千円	7万8千円	2,675万1千円
合 計	8億1,247万6千円	7億1,096万6千円	1億151万円	2億7,008万2千円

一般会計決算の概要

市で基本的な行政サービスを行っている一般会計の決算概要(4ページグラフ参照)をご説明します。

まず歳入は、市税など自ら調達できる「自主財源」と、国や道から入るお金や借金などの「依存財源」の2つに分けられます。自主財源に乏しい本市では、歳入の大半を依存財源に頼っており、中でもその多くを占める地方交付税によって本市の財政が支えられています。平成22年度の地方交付税は、普通交付税では人口急減に対する補正係数の増などにより、前年度と比較して5,443万1千円(2・9%)の増額、特別交付税は3,981万6千円(6・0%)の増額となり、全体で9,424万7千円(3・7%)の増額となりました。皆さんから納めていただいた市税は2億5,485万5千円で、前年度より1,442万6千円(5・4%)減少しました。これは主に、法人に係る市民税の減少に伴うものです。徴収率は94・4%で前年度を0・7ポイント上回りました。なお、市民1人当たりの市税負担額は、前年度より1,214円減少し、57,594円となっています。

次に歳出をご説明します。
 下記の歳出決算のグラフは、市が
 使ったお金について経済的性質を基
 準に分類したものです。

「義務的経費」は、職員給与や借金
 の返済など、必ず支払わなければな
 らない経費で、「投資的経費」は、施
 設や道路建設など行政水準の向上に
 直接かかわる経費です。また、「そ
 の他の経費」は、義務的経費や投資
 的経費に含まれない物件費や補助費
 などの経費です。一般的に、義務的
 経費の割合が低く投資的経費の割合
 が高いほど、財政に余裕があるとい
 われています。

平成22年度決算では、義務的経費
 が24億7,454万9千円（構成比53
 ・8％）、次いでその他の経費が15億
 6,682万9千円（同34・1％）と、
 これらの経費が歳出のほとんどを占
 めています。投資的経費は前年度に
 比べ2億4,304万9千円増加して
 5億5,554万9千円、全体の12・
 1％となりました。

本市では「歌志内市財政健全化計
 画」を基本として、投資的経費を中
 心に歳出全体を抑制しながら財政運
 営を行ってききましたが、これらの数
 値からも、財政構造の硬直化が示さ
 れる結果となっています。

平成22年度一般会計歳入・歳出決算の内訳

歳入総額48億4,819万円の内訳

自主財源 (19・5%)	市 税	2億5,485万5千円 (5.3%)
	使用料及び 手数料	3億1,543万2千円 (6.5%)
	繰越金	1億6,748万円 (3.5%)
	諸収入	1億5,021万5千円 (3.1%)
	その他	5,738万2千円 (1.1%)
依存財源 (80・5%)	地方交付税	26億5,616万8千円 (54.8%)
	国庫・道 支出金	8億8,205万7千円 (18.2%)
	市 債	2億7,401万4千円 (5.6%)
	その他	9,058万7千円 (1.9%)

歳出総額45億9,692万7千円の内訳

義務的経費 (53・8%)	人件費	10億1,250万円 (22.0%) 職員給与、議員・各種委員 ・嘱託職員の報酬、社会保 険料等に使ったお金	
	扶助費	6億7,288万6千円 (14.6%) 生活保護費・老人保護措置 費等に使ったお金	
	公債費	7億8,916万3千円 (17.2%) 市の借金返済のために使っ たお金	
	物件費	4億6,003万5千円 (10.0%) 行政事務に必要な物品の購 入、光熱水費、委託料、使 用料等に使ったお金	
		補助費等	3億5,815万7千円 (7.8%) 各種団体への補助金や保険 料等に使ったお金
	繰出金	4億7,282万7千円 (10.3%) 特別会計や事業会計の運営 のため繰り出したお金	
	積立金	1億7,189万1千円 (3.7%) 貯金として、財政調整基金 などに積み立てたお金	
	普通建設 事業費	その他	1億391万9千円 (2.3%)
		その他	5億5,554万9千円 (12.1%)
	投資的経費 (12.1%)		

目的別にみる一般会計決算額

項目	決算額	前年度との比較
民生費	9億8,276万6千円	△2億8,107万5千円
職員費	9億1,477万9千円	6,424万2千円
公債費	7億8,916万3千円	△377万3千円
土木費	5億8,018万2千円	1億8,215万8千円
衛生費	4億3,565万2千円	△2,555万円
総務費	3億5,622万4千円	△2億68万3千円
教育費	1億7,333万8千円	△8,823万9千円
消防費	1億4,614万3千円	1億2,187万9千円
商工費	1億2,254万円	△6,466万3千円
諸支出金	4,255万9千円	4,255万9千円
議会費	3,946万2千円	△12万7千円
労働費	820万7千円	225万9千円
農林費	591万2千円	258万5千円
災害復旧費	0円	0円
合計	45億9,692万7千円	△2億4,842万8千円

さらに、行政の仕事内容ごとに大きく分類した目的別の経費をみてみます。

最も多いのは民生費で、老人福祉や生活保護経費などに全体の21・4%にあたる約9億8,300万円を支出しました。

次に支出が多かったのは職員費で、特別職と一般職員の給与や医療保険などの共済費として、約9億1,500万円、全体の19・9%を支出しました。前年度と比較して約6,400万円増加しましたが、これは退職手当組合追加納付金の増によるものです。なお、議員報酬や各種委員等の

報酬などは各歳出項目に区分されるため、性質別分類での人件費の総額と金額は異なります。

公債費は、市債の償還金など約7億8,900万円を支出しました。

道路や市営住宅の管理経費などを支出する土木費は、前年度に比べ約1億8,200万円増加となる約5億8,000万円を支出しましたが、この増の主な要因は歌神地区改良住宅建替事業によるものです。

以下、衛生費、総務費、教育費、消防費、商工費、諸支出金、議会費、労働費、農林費の順に支出が多い結果となりました。

市民1人当たりの決算額

※平成23年3月末現在の住民基本台帳人口4,425人で算出

<p>民生費 222,094円</p> <p>医療費や介護保険事業、福祉行政全般に使われたお金</p> 	<p>職員費 206,730円</p> <p>職員の給与、医療保険などの共済費に使われたお金</p> 	<p>公債費 178,342円</p> <p>市の借金（市債）の返済に使われたお金</p> 	<p>土木費 131,114円</p> <p>市道整備や除排雪、公園や下水道整備などに使われたお金</p> 
<p>衛生費 98,452円</p> <p>各種保健予防事業、ごみ処理事業などに使われたお金</p> 	<p>総務費 80,503円</p> <p>一般事務経費や財産管理などに使われたお金</p> 	<p>教育費 39,172円</p> <p>教育施設の管理運営、社会教育事業の運営などに使われたお金</p> 	<p>消防費 33,027円</p> <p>火災予防活動や救急活動、消防施設整備などに使われたお金</p> 
<p>商工費 27,693円</p> <p>商工業者の振興対策、観光事業推進などに使われたお金</p> 	<p>諸支出金 9,618円</p> <p>他のどの科目にも目的が該当しない経費に使われたお金（土地・建物等の取得）</p> 	<p>その他 12,109円</p> <p>議会費 8,918円 労働費 1,855円 農林費 1,336円</p> 	<p>合計 1,038,854円</p> 

特別会計決算の概要

■市営公共下水道特別会計

決算額は歳入・歳出とも4億3,244万4千円です。

前年度と比較すると、歳入・歳出とも約1億8,800万円の減少となりましたが、これは主に公債費の市債償還金の減によるものです。

■市営神威岳観光特別会計

決算額は歳入・歳出とも2,137万2千円で、前年度に比べ、歳入では約3,000万円、歳出では約2,600万円減少しましたが、これは公債費及びリフト整備等普通建設事業費の減などによるものです。

■国民健康保険特別会計

決算額は歳入が2億6,791万円、歳出が1億6,647万8千円で、差し引き1億143万2千円を翌年度に繰り越しました。

前年度と比較すると、歳入では約3,400万円の増額、歳出では約900万円の減額となりました。この主な要因は、平成21年度繰越金と空知中部広域連合の決算精算による分賦金の返還によるものです。

■後期高齢者医療特別会計

決算額は歳入が9,075万円、歳出が9,067万2千円で、差し引き

7万8千円を翌年度に繰り越しました。前年度と比較すると、歳入・歳出とも約400万円の増加となりました。

病院事業会計決算の概要

▼患者数の状況

年間延べ患者数は、入院が2,117人、外来が16,439人となり、前年度と比較すると入院は477人増加し、外来では856人減少しました。

▼経営の状況

総収益は、前年度より451万4千円の減額で5億5,792万6千円、総費用は前年度より525万7千円の減額で5億4,855万2千円でした。

平成22年度は、3年ごとに清算することになっている退職手当組合追加分の納付などで給与費が増加しましたが、薬品購入に伴う材料費や備品修繕に係る経費の減など、支出の減少が収支状況に大きく反映されました。

患者動向による収入状況では、外来収益にあつては患者数の減少から厳しい経営を強いられ、また入院収益にあつても、患者数が増えた反面、医療必要度の高い患者数の減少によ

り前年度の実績を下回ることになりました。

結果として、収入減を上回る支出の減により、消費税を除いた単年度収支で760万2千円の純利益が生じ、累積欠損金は8億2,630万9千円となりました。

資本的収支は、収入・支出とも6,448万6千円で、前年度更新した医療機器購入費の減などにより、前年度から151万6千円減少しました。

病院事業会計の決算状況

〈収入〉		収益的収支		〈支出〉	
医業収益	4億1,831万5千円	医業費用	5億3,755万2千円		
医業外収益	1億3,961万1千円	医業外費用	1,100万円		
合計	5億5,792万6千円	合計	5億4,855万2千円		

〈収入〉		資本的収支		〈支出〉	
出資金	6,286万6千円	建設改良費	162万円		
他会計繰入金	162万円	企業債償還金	6,286万6千円		
合計	6,448万6千円	合計	6,448万6千円		

※決算額には、消費税が含まれています。

全会計の市債現在高

年度	全会計市債 年度末現在高	年度末の人口	人口1人当 たり現在高
平成18年度	117億4,466万5千円	5,100人	230万3千円
平成19年度	108億1,154万1千円	4,907人	220万3千円
平成20年度	98億939万8千円	4,755人	206万3千円
平成21年度	90億2,931万2千円	4,579人	197万2千円
平成22年度	83億7,385万5千円	4,425人	189万2千円

